

連携中枢都市圏ビジョン懇談会

令和７年３月２５日

担当課

鳥取市政策企画課

## 麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業について

## １．経緯

鳥取市では、「人口戦略会議」の消滅可能性自治体の発表を受けて、昨年６月、若者目線での施策立案を図るため「若手職員によるプロジェクトチーム」を立ち上げ、１１月には同チームから政策提案「地元大学生の定着による社会動態の改善～学生とまちの人が交わるまち鳥取市の構築による学生の定着促進～」を受けました。

## ２．事業の目的

就職等を機に県外へ転出する学生が多い一方で、地域の社会人と接点のある学生は地域に定着している事例が県内にあります。そのような学生を増やすため、鳥取市内で麒麟のまち圏域の学生と若手社会人が参加するゆる～く気軽な交流会を開催し、鳥取市をはじめ、麒麟のまち圏域の若者定着を促進します。

## ３．事業の内容

鳥取市内で麒麟のまち圏域の学生と若手社会人が参加するゆる～く気軽な交流会を開催します。

## ＜学生と若手社会人の交流会＞

|      |                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的   | ① 学生と若手社会人がつながる機会をつくり、鳥取市をはじめ、麒麟のまち圏域の若者定着を促進します。<br>② 鳥取市内に、将来的に学生と若手社会人がゆる～く気軽に交流できる常設の場をつくることを検討する上での参考とします。            |
| 開催日  | 開催回数２回（７月頃、１０月頃を予定）<br>※開催は、①金曜夜１回 ②土曜もしくは日曜夜１回 を想定                                                                        |
| 場所   | 鳥取市の中心市街地                                                                                                                  |
| 対象者  | ① 麒麟のまち圏域在住（通学含む）の学生（大学生、専門学生）<br>② 麒麟のまち圏域在住（通勤含む）の２０～３０代の若手社会人                                                           |
| 募集人数 | ２０名程度（学生１０名、社会人１０名）                                                                                                        |
| 内容   | ・食事（もしくは体験）をしながら、学生と若手社会人が自由に交流を行います。<br>・交流の際には、ファシリテーターがサポートを行います。<br>＜流れ＞<br>① 自己紹介<br>② アイスブレイク<br>③ 食事（もしくは体験）をしながら交流 |

|  |           |                                                                         |
|--|-----------|-------------------------------------------------------------------------|
|  | ●参加者のメリット |                                                                         |
|  | 学生        | ・若手社会人の話を聞くことによって、麒麟のまち圏域での暮らしや就職を考える上でのヒントを得る機会となります。                  |
|  | 若手社会人     | ・学生の話聞くことによって、学生の考え方や生活の様子を知ることができ、採用試験やビジネスなどの学生に対する取組の充実につなげる機会となります。 |

#### 4. 事業費

交流会の参加者募集や運営は、事業者へ委託します。

【委託料】423 千円（企画・運営費、広告宣伝費、会場代など）

※財源に、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金（地方創生型）を活用予定）